



一般財団法人光産業技術振興協会
副理事長・専務理事 小谷 泰久

新年、明けましておめでとうございます。

光産業技術振興協会は1980年に設立され今年で40周年を迎えます。東京オリンピック・パラリンピックが開催される記念すべき年に40周年を迎えられ感銘深いものがあります。

12月に実施予定の40周年記念式典の他いろいろなイベントを計画しておりますので皆様とともにお祝いをしたいと考えております。

この40年の間、光産業技術は、情報通信、情報処理、自動車・モビリティ、ディスプレイ・照明、情報記録、情報入出力、レーザ・光加工、光エネルギー、センシング・計測等様々な産業分野において新たな付加価値を創造し続けてきました。

さらに、この光産業技術を有効活用することで、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を融合させ、経済発展と社会的課題を解決する「Society5.0」、国際的な低炭素社会の実現とエネルギーの安全保障、プライバシーの保全や犯罪の防止に必要なセキュリティ、人々の健康管理や先進医療技術等安全安心で快適に暮らすことのできる社会の実現に大きく貢献できるものと考えられています。

当協会では、光産業技術に関する産学官の連携の要として、光技術に関する研究開発戦略、事業化戦略の策定を推進するとともに、関係機関への提案を通して、我が国光産業のイノベーションを推進してまいりました。

昨年は、技術戦略策定委員会のもとに専門委員会を設け「見えないものを見る光イメージング・センシング・テクノロジーロードマップ」の作成を行いました。この成果については、2月19日（水）にリーガロイヤルホテルにおいて開催する光産業技術シンポジウムで発表する予定です。また、次世代情報通信システムに必要な「異種材料集積による10テラビット級低消費電力光伝送デバイス」の先導研究も新たに開始することができました。

一方、国家プロジェクトとして推進されている「超低消費電力型光エレクトロニクス実装システムプロジェクト」及び「ディスプレイ型次世代データセンタに適用する光電ハイブリッドスイッチシステムプロジェクト」も順調に研究開発が進んでいます。

さらには、車載ネットワークやデータセンタ内光コネクタなどの標準についてIEC、ISO、各種フォーラム等の場での国際標準化活動を積極的に展開し報告書を取りまとめ中です。

本年も引き続き将来の光産業の発展のために、プロジェクト立案に向けてのFS、技術戦略策定、光産業・光技術動向等各種調査、標準化事業や基準認証研究開発、シンポジウムや研究会などの普及啓発事業を実施して参ります。より一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、皆様方のご発展、ご健勝を心から祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。